

## ThorensTD124 の導入(1)

ーレストア内容ー

### 1. 始めに

オーディオ仲間のところで ThorensTD124 が余っているという情報に接し、譲っていただくことにし、整備していくことにしました。

### 2. ThorensTD124 のレストア内容

現状を LINN ショップに確認してもらい、打ち合わせしながら下記のようにレストアを進めました。



レストア前

- モーターの整備

モーターは回るが、スムーズに回るようにターンテーブルは回らないので、劣化したベルトの交換、アイドラーゴムの亀裂修復と清掃、LP-12 用の潤滑油の軸受け注油等の整備を行いました。

- アームの整備

アームのカウンターウェイトが外れていました。これはカウンターウェイトの共振を防ぐために、アーム本体とゴムを介して取り付けられていたものが、ゴムが劣化して取れてしまったということでした。それ故、強度を確保した強化樹脂製のパーツで部品を作り、カウンターウェイトを取り付けました。

- フォノケーブルの交換

見るからに古いものですので、LINN の T フォノケーブルに交換しました。なお、フォノケーブルの出力端子は通常とはオスメスが逆ですので、オリジナルの端子を LINN のフォノケーブルに接着して使用します。さらにアースポイントも変更

しました。

- 電源ケーブルの交換

電源部を整備し、ケーブルが見るからに古いものですので、LINNの電源ケーブルに交換しました。

- ミュートスペーサーの削除

一時的に再生をミュートするためのアルミ製のスペーサーがありましたが、音質的によくないというので外しました。

- アームリフターの設置

オリジナルのアーム RMG-212 にはアームリフターがなかったので、オートリフト機能のあるオーディオテクニカ製のアームリフターAT6006Rを追加しました。

### 3. ThorensTD124 の接続と設置

下記のように接続と設置を進めました。

- カートリッジの選定

アームはオルトフォンの RMG212 で SPU 専用のようなので、手持ちのオルトフォンの SPU Classic G と SPU Synergy を使っていきます。

- トランスの選定

オルトフォンのカートリッジにはオルトフォンのトランスということで、ST-7 と STA-6600L をテストします。STA-6600L はジャックがガタつき、片チャンネル音がでないので、ジャックのネジの破断を修理し、出力段の断線を整備しました。その他の手持ちのトランスとの組み合わせも順次検討します。

- フォノイコライザーの選定

Garad401 と同じく、トランスを介して若松通商の Maraz7 タイプのプリのフォノ入力に繋いでみますが、ZANDEN Model 120 も使ってみます。さらに 47 研のフォノイコライザー4718 や iPhono や Brooklyn DAC+ のフォノ入力も試してみます。

- インシュレーターの選定

ThorensTD124 のゴム足の大きさに見合うものを、手持ちの自作のインシュレーターから選定しました。

- 電源タップ

空きのある電源タップまで電源ケーブルが届かないで、中村製作所の古いアイソレーション電源トランスで中継することにしました。

- ターンテーブルシートの選定

ターンテーブルシートはターンテーブルと一体ものになっており、さほど傷んでいないようなので当面そのまま使用していきます。さらに手持ちのシートも試してみます。

#### 4. まとめ

譲り受けた ThorensTD124 のレストアが完了し、接続と設置方針も決まりました。  
引き続き試聴を行っていきます。

以上